

# どんな人材を求めるか

技術職として西宮市役所で経験を重ね、管理職となっている職員が、どの様な考えを持って、どんな思いを持ってシゴトをしているのか。西宮市はこんなところ、大切にしていること、ワークライフバランスなどを、建築職の課長級職員に、対談形式でインタビューしました。

## ■ 説明会などでよく西宮市は「ちょうどよい」規模だという話をしますが…

佐藤：市の建築部門は大きく分けて、公共施設の整備、マネジメント、許認可・指導、まちづくり政策の4つになります。西宮市は専門部署が適切に配置されています。規模が小さくなれば1人でいろいろなことをしなければならないし、大きくなればより細分化されてしまい、全体が見えなくなってしまうかもしれません。

伊東：そういう意味では西宮はまさに“ちょうどよい”規模で、3～5年のジョブローテで若いうちにいろんな経験をすることで、多角的な視点を持てると思います。またいろいろなことを知ることで、自分の適性にも気づくことができるし、自分の持っている才能・強みを、どこかでは生かせる、懐の深い職場であると言えるのではないのでしょうか。

佐藤：また、建築職だけの職場では考えなどが偏る時がありますが、土木職や事務職と混合の課もあり、いろんな知識・価値観・視点で仕事ができるようになると思います。

伊東：公共施設整備を実施するうえで、様々な課と関わり合うことが多いですね。建築の専門職として、建築技術を踏まえた確に対応し、円滑に業務を進めるにはコミュニケーション能力も必要になります。また建築職であっても、土木的な知識や文章作成能力等も問われます。いろいろな業務を進める中で、公務員に必要な知識・技能を身につけることが出来るようになります。

## めげずに果敢に取り組むことで、自身の成長につながる。

### ■ どんな人と一緒に働きたいか

佐藤：まず相手のことを考えられる人。社会生活では当然のことですが、それができる人といっしょに仕事をしたいです。

伊東：私は自分の意見や考えを持っている人がいいですね。そのような人となら建設的な話ができるし、良いものができると思っています。またバランス感覚も大事な。バランス感覚を磨いていないと、判断を誤ることもあるのではないかと考えています。西宮市は周りの人が長い目で見てくれるし、いい意味で鍛えてもくれます。

佐藤：また、組織で仕事をしているので、自分のキャバを超える仕事はあまりないと思います。大変な仕事はたくさん出てきますが、たとえ自分が無理でも後ろで守ってくれます。めげずに果敢に取り組んでいくことで、自身の成長につながる。組織として人を育てること、そして人が育つこと、それが市として最大の財産になると考えています。

人が育つこと  
それが市としての  
最大の財産



都市局建築・開発指導部建築指導課長 佐藤 亘一郎

平成6年4月入庁。営繕課、建設課、住宅整備課などを経験し、平成19年に係長昇任。開発指導課、建築指導課を経て平成27年から現職。

### ■ 仕事で大切にしていることは

佐藤：仕事の理由や意味を考え、合ってるか間違ってるかではなく、しっかり理解してから臨むことが重要だと思っています。

伊東：時間はかかりますが、分からないことは、まず自分で調べる習慣をつけ、調べる手段を分かっておくことが大事ですね。のちのち大きな差が出てくると思いますよ。まずは、与えられた仕事をきっちりこなし、まわりの評価を得ることにより、自分のやりたい仕事に到達できるのではないかと考えています。

課長としては、建築だけでなく、社会全体のことも考え、業務に取り組むよう心掛けています。

佐藤：建築行政は積極的に建てていく仕事とは色が違いますが、法律を勉強できるタイミングです。法律部門のプロとして、工事部門とタッグを組み、いかに効率的に工事ができるか、サポートしていきたいと考えています。

伊東：それから私自身、仕事を楽しむようにしています。それが部下に伝わればいいなと思っています。また、仕事には年齢、職場、職責に応じた立場があると思っています。その立場に相応しい仕事を一生懸命することで、仕事人として成長できるのではと考えています。

その立場に  
相応しい  
仕事を  
する



土木局営繕部営繕課長 伊東 日出志

平成3年4月入庁。住宅建設課、営繕課、建築審査課などを経験。平成19年に係長昇任。開発審査課、建築調整課などを経て平成29年から現職。

伊東課長は新人配属時、「新人伝達事項」を作成して職員の心得として渡している。以下抜粋。

1. 社会人としてのマナーを身に付けること
2. プロとしての自覚をもつこと
3. 公務員として意識しておくこと

## まずは、与えられた仕事をきっちりこなし、評価を得ることで、自分のやりたい仕事に到達できる。

### ■ 今までの経験に基づく、シゴトとプライベートの充実について

佐藤：昔は長時間残業もたくさんありましたが、それでも充実していたので、やらされている感覚はありませんでした。仕事も人生の一つ。それが充実していないとおもしろくないですね。超過勤務縮減は社会的な動きとなっていますが、やるべきにやる、というのも一つの考え。ただ体力的に疲弊してしまいますので、リフレッシュも必要ですね。

伊東：私も仕事は苦にならないですね。以前、審査請求や裁判資料を作るのに1ヶ月休みがないこともありましたが、集中していると時間を忘れてしまいます。長時間労働をなくそう、ワークライフバランスという現在の流れでは、昔のように働くことは難しくなっているのは確かですね。ただ仕事ばかりというのもさびしいですが、プライベートだけというのもさびしい気がします。仕事をやってないと得られない感覚もあると思いますよ。人に感謝されたり、喜んでもらえたり。

建築はそんなに簡単ではなく、良いものをつくろうとすると、どうしても時間はかかってしまうし、かけるべきだと思っています。それが成長にもつながるのではないのでしょうか。でも時間をかけ過ぎるのはどうかと思います。なんでも“過ぎて”はだめで、バランスが大事ですね。

佐藤：たしかに、建築職はのめりこみやすい人が多いかもしれませんね。それだけではなく外に気をかけ、深堀りすぎないように。全体が見えないといけないこともありますし、組織の一部として機能するには、積極的に他の人、他の組織と関わることで、視野を広げる必要があると考えています。

## 仕事も人生の一つ。それが充実していないと面白くない。